

静岡新聞 2023 年 8 月 23 日 付

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

総務省が18日に発表した7月の消費者物価(変動の激しい生鮮食品を除いている)は、前年比で3・1%増であった。これで11カ月連続で消費者物価は3%を超えて上昇していることになる。こうした物価の上昇は、多くの人が日常生活の中で実感しているだろう。具体的な例を挙げると、鶏卵は鳥インフルエンザの影響で36・2%上昇している。ハンバーガーも14%上昇している。今回の数字には出てこないが、ガソリンの値段もこのところ上昇が目立っている。

# 物価上昇とハイリスク投資

いる。ただ、この1年を通じて物価上昇率が前年比で3%を超えているというのは、現状では日本がインフレ状況にあることは間違いない。

インフレの下では、貨幣の購買力が減少する。要するに1万円で購入できる物やサービスが少なくなるということだ。3%ということで大したことがないようにも見えるが、資産との見合いで考えると購買力の低下の深刻さがよりよく見える。預貯金で100万円持っている人にとつては、預貯金の実質的な価値(購買力)が3万円失われるということになる。そうしたことはないと願いたい。これが10年続けば30万円以上の損失となる。1千万円以上の預貯金を持っている人もいるだろうが、その人たちにとつては1年3%のインフレが続けば30万円以上の損失となる。5年続けば、150万円以上の損失となる。

もちろん、こうした計算は預貯金がほとんど利子を生まないという前提で計算している。インフレが進行すれば、投資信託や債券の利回りも上がるだろうし、賃金だって上昇する。インフレの流れに乗れば、それに応じた資産運用などの調整が必要となる。

ただ、そうした流れの中で

気になることもある。より多くの利回りを確保するため、リスクの高い投資運用に関心を持つ人が増えてきたことだ。少し前に話題になったが、仕組み債への誘導が過度なリスクを押し付ける結果になったと、一部の金融機関が業務改善命令を受けた。仕組み債は利回りが高くて魅力的に見えるが、株価などが大きく下がると元本の半分近くも失うリスクが潜んでいる。仕組み債以外に関心が高まっているのが、ドル建ての債券や保険などだ。ドルの金利が高いので利回りがよいが、仮にドルが大きく値を下げるようなら大きな損失を出すリスクがある。最近の大幅なドル高の環境では、そうしたドル価値の下落のリスクは無視できない。

誤解があつてはいけませんが、私はこうしたリスク資産運用を否定している訳ではない。高いリターンを求めれば、それなりのリスクが伴うということだ。インフレが顕著になる中で、より多くの人がハイリスク・ハイリタンの資産に関心を持つのは当然だ。しかし、だからこそリスクとリターンを冷静に判断した健全な資産運用が求められる。今こそ金融リテラシーが問われるのだ。